

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	音響芸術専門学校
設置者名	学校法人 東京芸術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
音響技術専門課程	音響テクニカル・アーティスト科	夜・通信	1878 時間	$80 \times 3 = 240$ 時間	
	録音・PA 技術科	夜・通信	972 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	ライブ音響・コンサートスタッフ科	夜・通信	892 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	ミュージカル&ステージスタッフ科	夜・通信	866 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	音響監督・ビジュアルアート制作科	夜・通信	1006 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	夜間総合学科	夜・通信	723 時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HP にて実務経験のある教員による授業を記載した科目一覧表を公開。
<https://www.onkyo.ac.jp/info>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	音響芸術専門学校
設置者名	学校法人 東京芸術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事（役員）名簿を公開
<https://www.onkyo.ac.jp/info>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	音楽レコード会社 制作部部長	2023 年 6 月 24 日～ 4 年間	音楽制作業界との 橋渡し
非常勤	俳優	2023 年 6 月 24 日～ 4 年間	芸能界との橋渡し
(備考)			

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	音響芸術専門学校
設置者名	学校法人 東京芸術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 昼間部3年制：音響テクニカル・アーティスト科 昼間部2年制：録音・PA技術科 ライブ音響・コンサートスタッフ科 ミュージカル&ステージスタッフ科 音響監督・ビジュアルアート制作科 夜間部2年制：夜間総合学科 【作成について】 年度毎の教務部カリキュラム会議および教育課程編成委員会による会議・意見交換会にて学科ごとの年間実施科目を決定し、各授業科目を担当する教員により作成される。また、外部講師（非常勤講師）による科目については、学内の担当教員が講師と打ち合わせの上で作成をする。 【時期について】 授業計画は12月～1月実施の教務部カリキュラム会議での決定を受け、3月までに完成。3月中旬頃に、次年度の学則および履修の手引きに配当表を反映後、HPで公表。	
授業計画書の公表方法	HP掲載： https://www.onkyo.ac.jp/info
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則に、履修の認定、試験、成績評価、卒業について規定するほか、学則に付随する履修の手引きにその評価方法や進級・卒業基準の詳細を記載。 <以下参考、学則より引用> (履修認定) 第23条 各教科の履修認定は、試験／レポート等に対する評価による。実習・実験・演習などについては、平常の成績（レポート等）をもって試験の成績にかえることもある。 (試験) 第24条 試験は、学期末にこれを行うことを原則とする。 (成績評価) 第25条 成績の評価は 優・良・可・不可とし、不可は不合格とする。 (卒業) 第26条 所定の授業科目を履修し、試験に合格して、所定の単位を取得した者には、学習評価の上、卒業証書を授与する。 第27条 前条により、音響技術専門課程の昼間部学科を修了した者には「専門士」の称号を授与する。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各教科の履修認定は、試験／レポート等に対する評価による。実習・実験・演習などについては、平常の成績(レポート等)をもって試験の成績にかえることもある。 【成績評価の方法について】 成績の評価は、優・良・可・不可の4段階とし、不可は不合格とする。尚、採点の基準は下記の通りで、全ての履修科目では4段階の成績評価の元となる採点は100点満点で点数化される。 優：80点～100点、良：70点～79点、可：60点～69点、不可：59点以下 【客観的な指標の算出方法について】 全履修科目の成績評価を点数化し、総合計点から平均点を算出。 各学科の学年ごとに算出された値を基に成績の分布表を作成。 【公表について】 成績評価の方法は、学則(P.5-6,第23条-第27条)および履修の手引き(P.10,3)試験(ホ)採点基準)に記載があり、それらを本校HPで公開。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	HP掲載： https://www.onkyo.ac.jp/info
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の要件は、学則および履修の手引きに記載があり、公開は成績評価の方法とともに本校HPにて行っている。 ＜以下参考、学則より引用＞ 第26条 所定の授業科目を履修し、試験に合格して、所定の単位を取得した者には、学習評価の上、卒業証書を授与する。 第27条 前条により、音響技術専門課程の昼間部学科を修了した者には「専門士」の称号を授与する。 ＜以下参考、履修の手引きより引用＞ 2) 進級・卒業基準 進級・卒業基準は下記の通りとする。 (イ) 本校生は学科ごとに定められた教科を全て履修しなければならない。 (ロ) 卒業資格は、単位制度に基づき認定されるものとする。 (ハ) 卒業資格は、取得単位数が昼間部2年制学科においては70単位以上、昼間部3年制学科においては100単位以上、夜間部においては45単位以上の者に与えられるものとする。 (リ) 卒業認定基準を満たさない者については、卒業判定会議において、これを判定する。 4) 卒業 (イ) 卒業に必要な条件は次の通りとする。 ① 2)の卒業基準を満たした者。 ② 卒業までに必要な学費を納入してある者。 (ロ) 卒業の時期 卒業の時期は、原則として年度末である。本校では、3月15日頃が恒例となっている。ただし、留年した者が、留年した年次の前期末までに卒業単位を充足した場合は、その時点をもって卒業することとし、留年した年次の後期授業料及び後期実習費の納入は免除される。	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	HP 掲載： https://www.onkyo.ac.jp/info
----------------------	--

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	音響芸術専門学校
設置者名	学校法人 東京芸術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて毎年6月下旬頃に最新情報を公開。 https://www.onkyo.ac.jp/info
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		音響技術専門課程	音響テクニカル・アーティスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2814 単位時間／単位	544 単位時間 ／単位	830 単位時間 ／単位	1440 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		17 人	1 人	11 人	48 人	59 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い、在学学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワークガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100%)	0 人 (0.0%)	4 人 (80.0%)	1 人 (20.0%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、ポートフォリオ（作品集）作成指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定 3 級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	1 人	0.5%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		音響技術専門課程	録音・PA 技術科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1900 単位時間 単位	520 単位時間 /単位	660 単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		37 人	3 人	11 人	48 人	59 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い在学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワークガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	1 人 (5.5%)	14 人 (77.8%)	3 人 (16.7%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定3級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験等			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	3 人	6.5%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		音響技術専門課程	ライブ音響・コンサートスタッフ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1884 単位時間 単位	500 単位時間 /単位	648 単位時間 /単位	736 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		37 人	2 人	11 人	48 人	59 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い在学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワークガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0.0%)	10人 (83.3%)	2人 (16.7%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定3級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		音響技術専門課程	ミュージカル&ステージスタッフ科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1904 単位時間 単位	556 単位時間 / 単位	648 単位時間 / 単位	700 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位
			単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		21 人	1 人	11 人	48 人	59 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い在学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワークガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	0人 (0.0%)	11人 (84.6%)	2人 (15.4%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定3級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	1 人	3.3%
(中途退学の主な理由) 体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		音響技術専門課程	音響監督・ビジュアルアート制作科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1934 単位時間／単位	526 単位時間／単位	628 単位時間／単位	780 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		16人	2人	11人	48人	59人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照							
成績評価の基準・方法							
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照							
卒業・進級の認定基準							
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照							
学修支援等							
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い 在学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワーク ガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行 っている。							

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0.0%)	4人 (50.0%)	4人 (50.0%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定3級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	1 人	5.9%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		音響技術専門課程	夜間総合学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	夜	964 単位時間 単位	196 単位時間 /単位	492 単位時間 /単位	276 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		22 人	0 人	11 人	48 人	59 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 担任教員によるガイダンスや個人面談等で学習面や生活面についての相談を適宜行い、在学生一人ひとりの学びへの需要を把握するよう努めている。また授業内にワークガイダンスや企業訪問を取り入れ、就職に対して意欲的に取り組む学生への支援も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0.0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)
（主な就職、業界等） 音楽スタジオ、音響技術会社、照明技術会社、舞台管理・技術会社、放送関連技術会社、番組制作会社、音響機器設計・製作・販売会社、他			
（就職指導内容） ワークガイダンス、企業訪問、個人面談、履歴書作成・添削指導、面接練習等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 舞台機構調整技能士（音響）検定3級、第一級陸上特殊無線技士試験、映像音響処理技術者資格認定試験、聴能検定（本校独自）、ProTools 技術認定試験、サウンドレコーディング技術認定試験、音響技術者3級等			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人ガイダンスを実施し、学習進度や出席状況について相談・指導している。欠席の増加や進級が懸念される場合等は、適宜保護者への連絡を行う。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
音響テクニカル・ アーティスト科 (昼3年制)	360,000 円	800,000 円	340,000 円	
録音・PA 技術科 (昼2年制)	360,000 円	800,000 円	340,000 円	
ライブ音響・コンサー トスタッフ科 (昼2年制)	360,000 円	800,000 円	340,000 円	
ミュージカル&ステー ジスタッフ科 (昼2年制)	360,000 円	800,000 円	340,000 円	
音響監督・ビジュアル アート制作科 (昼2年制)	360,000 円	800,000 円	340,000 円	
夜間総合学科 (夜2年制)	260,000 円	480,000 円	250,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP 掲載 : https://www.onkyo.ac.jp/info		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
当学校法人や当校の実情に精通した教育界の有識者 1 名、マスコミ業界の実務家 1 名、音響業界の実務家兼卒業生 2 名の特任委員により学校関係者評価委員会を組織。 アンケートに基づく個別意見聴取と検討会議の実施 (6 月頃) によって、教育課程、教科指導、教員選定、進路指導等の評価項目を中心に検討、評価を行っている。 評価結果内容は公表 (6 月下旬頃) すると同時に、教職員会議、カリキュラム編成会議の参考意見として吸い上げる。 改善方策の実施は、緊急性の高いものは即座に、そうでないものも遅くとも翌年度の学校運営／教育活動方針、カリキュラム編成に反映させる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
マスタリングエンジニア	2023 年 6 月 24 日～ 4 年間	企業・卒業生
広告プランナー	2023 年 6 月 24 日～ 4 年間	企業
大学教授	2023 年 6 月 24 日～ 4 年間	学識経験者
音響技術会社 代表	2025 年 6 月 1 日～ 4 年間	企業・卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP 掲載 https://www.onkyo.ac.jp/info		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HP 掲載 https:// www.onkyo.ac.jp/ 学校案内および入学要項冊子は上記のHPより請求可

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113310300043
学校名（〇〇大学 等）	音響芸術専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人東京芸術学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		26 人（－ 人）	28 人（－ 人）	28 人（－ 人）
内 訳	第Ⅰ区分	13 人	12 人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅲ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（ － 人）	（ － 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－ 人	－ 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	－ 人	－ 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（0人）
合計（年間）				0 人（0人）
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	—人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	0人	—人
計	0人	0人	—人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。